

令和3年 9月 1日

令和4年度の教育プログラム認定について

山形大学理事（教育担当）

出口 毅

令和4年度の各学部等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、医学部看護学科を除く全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和4年度の教育プログラムとして認定する。

なお、医学部看護学科については、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴いカリキュラムの見直しを行い、文部科学省へ届け出し認定を受けることとしている。このことを踏まえ、今年度については文部科学省からの認定をもって本検証作業に替えることとする。

【観点1】

教育プログラムが、各学部等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・カリキュラムチェックリストの作成により、各授業の達成度レベル等が可視化できている。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて、改善点や検討すべき点について各学部等において再度検討され、必要に応じて修正を加えた上で、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・今回で各学部等の教育プログラム検証作業は6回目となるが、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントが確立されつつある。
- ・前回の各授業のDP及びCPとの対応関係や達成度レベルの指標、履修者数等のデータを基に今回のカリキュラムチェックリストの作業が進められており、適切な授業配置が行われている。

【会議での審議状況】

令和3年8月26日	学部統括教育ディレクター会議（協議）
令和3年9月 1日	役員会（協議）
令和3年9月 8日	教育研究評議会（報告）

令和4年度の教育プログラムの検証結果について

学部			観点1	観点2	認定の可否	備考
人文社会科学部	人文社会科学科	人間文化コース	○	○	○	全般的に観点1、2のいずれについても、限られたリソースの中でバランス良く構成されている。 前年度に指摘されていた受講者数の偏りについても、令和2年度の実績として改善されている。 法律コースのDP2に該当する科目数が少ないように見えることから、表記上のバランスをとる点について、今後の検討課題とした。
		グローバル・スタディーズコース	○	○	○	
		総合法律コース	○	○	○	
		地域公共政策コース	○	○	○	
		経済・マネジメントコース	○	○	○	
地域教育文化学部	地域教育文化学科	児童教育コース	○	○	○	「フィールドプロジェクト」について授業の到達目標ごとに行を分けて作成し、それぞれのプロジェクトのDPへの対応を明確化した。
		文化創生コース	○	○	○	
理学部	理学科		○	○	○	一部脱字修正と、敬体から常体へ修正した。
医学部	医学科		○	○	○	
	看護学科		○	○	○	
工学部	高分子・有機材料工学科		○	○	○	"I"の科目がないDPについては基盤共通教育科目等でカバーできていることを確認した。 機械システム工学科のDP1、5、8は"A"、及びシステム創成工学科のDP2の"M"、"A"やDP3の"A"の授業科目が無かった。
	化学・バイオ工学科		○	○	○	
	情報・エレクトロニクス学科		○	○	○	
	機械システム工学科		○	○	○	
	建築・デザイン学科		○	○	○	
	システム創成工学科		○	○	○	
農学部	食料生命環境学科	アグリサイエンスコース	○	○	○	全体としてバランス良く教育プログラムが編成されている。 履修者数が数名の開講科目については、次年度へ向けてその原因を明らかにし、科目配置について再検討する必要がある。
		バイオサイエンスコース	○	○	○	
		エコサイエンスコース	○	○	○	

○カリキュラムチェックリスト

教育課程の編成・実施方針(CP)	学位授与方針(DP)
<p>CP1 文化資源と自文化の価値の理解を地域課題の解決につなげることのできる実践力を育成するため、課題解決型の実践教育科目を配置する。</p> <p>CP2 将来の展望と職業選択の準備が適切にできるように、キャリア関連の科目を必修化する。また、民間企業、地方自治体などのインターンシップを実施する。</p> <p>CP3 高度な日本語能力を養成するために、専門科目の随所にレポート作成や発表・討論を取り入れる。英語の幅広い能力を獲得するため2年次以降も英語による授業や演習の科目を配置する。多様な言語の能力を養うために、必修外国語の履修を必修化する。</p> <p>CP4 データの分析能力を修得するために、1年次の「情報処理」に加えて、社会調査法、統計学の基礎に関する授業科目を設定する。また、データ処理力を養成するための演習を必修化する。</p> <p>CP5 人間と文化について地域や分野を横断する視点から幅広い教養を身に付けさせるために、教養科目履修に領域指定を行う。また2年次以降に分野横断の学部共通科目群を配置する。さらに専門科目では隣接領域と連携した履修モデルを準備する。</p> <p>CP6 人文学の専門知を体系的に修得させるために、専門科目を導入・基礎・展開のレベル別に区分し、基礎科目と展開科目において講義と演習を配置する。あわせて、4年次に専門知の応用力を育成するために少人数による卒論演習を配置する。</p>	<p>DP1 事物や出来事を持つ文化的意味とその多元性を理解するとともに、地域や文化の異なる人々と意見交換しながら、現代社会の様々な課題を解決することができる。</p> <p>DP2 社会の中で人文学を学ぶ意味を理解して、学ぶことの意義と自らの役割を考えながら、将来の展望と職業選択に必要な知識や能力を身につけている。</p> <p>DP3 日本の文化・歴史や社会的課題に関する学術的な知見を、高度な日本語によって適切に説明するとともに、多様な言語で書かれた専門文献を的確に読み、日本語や外国語でコミュニケーションをとることができる。</p> <p>DP4 情報機器を活用した情報収集や文書作成の能力に加えて、情報セキュリティを含む情報管理能力を身に付けた上で、文献資料、実地調査、実験等で得られたデータを分析し、効率的な情報発信や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>DP5 地域や日本、近隣諸国などの様々な文化的背景を持つ人間とその活動を理解し、領域横断的な教養を身につけている。</p> <p>DP6 人文学の専門領域について中核となる学術的成果を修得するとともに、自ら文化資源や問題を発見し、論理的・批判的思考の結果を意見としてまとめることができる。</p>

■履修科目表【人間文化コース】

授業科目	単位数	授業形態	開講学年	ナンバリング	令和元年度の履修者数	令和2年度の履修者数	時間割コード	教育課程の編成・実施方針(CP)						授業の目的	到達目標	学位授与方針(DP)						授業担当		授業種別	開講形態	チェック欄						
								CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6			DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	(注・副・兼・非常勤・新採等)	氏名			必修・選必・選科・自由・免許・資格・他	到達目標の明確性	授業目的及び目標がDPと対応している	授業目的及び目標がCPと対応している			
1 キャリア・ガイダンス	2	講義	2	HCA2303	90	137	18001		◎					○	キャリア形成と職業選択 講師である各界で活躍する若手社会人(30歳代中心)の職業意識、その職業を選択した背景、今後のキャリアアップ構想を聞くことにより、受講者のキャリア形成のヒントとする。	職業をアクティビティに選択していく重要性を理解する。社会人のキャリアを聞くことにより自分のキャリアを考える契機とする。社会人とのコミュニケーション、グループワークを通してコミュニケーション能力を高める。		◎	I							非常勤講師	未定	選必		○	○	○
2 キャリア形成論	2	講義	2	HCA2201	43	29	18002		◎					○	自身のキャリアを形成することの意義を考え、職業意識を涵養する。	多様な職業を知り、働く意味や自分の将来についてイメージできるようにする。		◎	R							非常勤講師	未定	選必		○	○	○
3 キャリア形成論演習	2	演習	2	HCA3304	11	32	18003		◎					○	キャリアプランとライフプランの作成 自分について振り返る作業と、社会や職業について理解する作業を軸として、自分にとってのキャリア(仕事、人生)について考える。	個人作業とグループ演習を通して、自分についての理解を広げ深める。グループ演習を通して自分とは異なる価値観に目を向け、他者や社会への理解を深める。課題や授業のテーマへの取り組みを通して、自分の考えを説き及ぼす。		◎	R						非常勤講師	未定	選必		○	○	○	
4 インターンシップ	2	実務・実習	2	HCA3305	130	不開講	18004	○	◎						就業体験を通じた自己認識と社会への適応 自治体・企業・NPO等における研修を通じて、学習意欲と就職に対する意識を喚起し、実社会において必要とされる高い職業意識や自立心と責任感を育成する。大学で学んだ知識と能力を応用して実践する能力を育成する。	研修先での就業体験を通じ、コミュニケーション能力を身につけるとともに、社会についての認識や自分自身の適性についての理解を深める。	OR	◎	M					主	学部進路指導委員会	選科		○	○	○		

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。
 ◎DP達成のために、特に重要な事項
 ○DP達成のために、重要な事項
 △DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。
 I Introduced = 導入
 R Reinforced/Practiced = 発展/強化
 M Mastered = 熟達
 A Assessed = 測定/把握

令和3年 9月 1日

令和4年度の教育プログラム認定（大学院）について

理事（教育担当）

出口 毅

令和4年度の大学院各研究科等の教育プログラムについては、以下の2つの観点に基づき、全プログラムについて検証作業を行った結果、適切であると判断し、令和4年度の教育プログラムとして認定する。

【観点1】

教育プログラムが、各研究科等のDPやCPに沿ったカリキュラム編成となっているか？

- ・DPやCPに沿った適切なカリキュラム編成であると判断する。

【観点2】

教育プログラムが体系的に編成され、それに沿った開講科目の配置となっているか？

- ・体系的に編成され、適切であると判断する。

【教育プログラム認定の総括】

- ・研究科等の教育プログラム検証作業については、今回で2回目の実施となるが、スムーズに作業を進めることができた。
- ・理事特別補佐からの検証報告を受けて改善点や検討すべき点を各研究科等において再度検討される等、適切に教育プログラムの認定が行われている。
- ・教育プログラムを認定する上で、上記観点1及び2は非常に重要な観点であるが、さらに発展的な視点からプログラムの認定を行うことができるか、引き続き検討していく。

【会議での審議状況】

令和3年 8月26日	大学院統括教育ディレクター会議（協議）
令和3年 9月 1日	役員会（協議）
令和3年 9月 8日	教育研究評議会（報告）

令和4年度の教育プログラムの検証結果について

【修士課程・博士前期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	備考
社会文化創造研究科	社会文化創造専攻	社会文化システムコース	○	○	○	
		臨床心理学コース	○	○	○	
		芸術・スポーツ科学コース	○	○	○	
理工学研究科	理学専攻		○	○	○	「授業の目的」中の表記法について、敬体と常体が混在していたため、常体に統一した。
	化学・バイオ工学専攻		○	○	○	
	情報・エレクトロニクス専攻		○	○	○	DP1, 3の”M”と”A”に対応する科目がないという指摘を受け、それぞれ当てはまる科目に記号をつけ、チェックリストを改定した。
	機械システム工学専攻		○	○	○	CP5,6に対応する科目がないという指摘を受け、それぞれ当てはまる科目に記号をつけ、チェックリストを改定した。
	建築・デザイン・マネジメント専攻		○	○	○	
農学研究科	農学専攻		○	○	○	
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	後期課程「有機材料システム特別計画研究」のDP3に”I”を追加した（添付のエクセルの緑ハイライト部）。前期課程のDP1に”R”の科目を入れるよう提言があったが、大学院共通科目「地域創生・次世代形成・多文化共生論」がDP1”R”に相当すると思われ、すべて高度専門科目で対応する必要はないと考えるため、前期課程に関して変更はしない。以上、目標・ポリシーに沿った適切な編成であることを確認した。
医学系研究科	先進的医科学専攻		○	○	○	
	看護学専攻		○	○	○	
教育実践研究科	教職実践専攻		○	○	○	

【博士課程・博士後期課程】

研究科	専攻		観点1	観点2	認定の可否	備考
理工学研究科	地球共生圏科学専攻		○	○	○	「授業の目的」中の表記法について、敬体と常体が混在していたため、常体に統一した。
	物質化学工学専攻		○	○	○	
	バイオ工学専攻		○	○	○	
	電子情報工学専攻		○	○	○	D5～8の“I”に対応する科目がないという指摘を受け、それぞれ当てはまる科目に記号をつけ、チェックリストを改定した。
	機械システム工学専攻		○	○	○	
	ものづくり技術経営学専攻		○	○	○	DP4～6の“T”、DP4の“A”、及びDP6の“M”に対応する科目がないという指摘を受け、それぞれ当てはまる科目に記号をつけ、チェックリストを改定した。
有機材料システム研究科	有機材料システム専攻		○	○	○	後期課程「有機材料システム特別計画研究」のDP3に“I”を追加した（添付のエクセルの緑ハイライト部）。前期課程のDP1に“R”の科目を入れるよう提言があったが、大学院共通科目「地域創生・次世代形成・多文化共生論」がDP1“R”に相当すると思われ、すべて高度専門科目で対応する必要はないと考えるため、前期課程に関して変更はしない。以上、目標・ポリシーに沿った適切な編成であることを確認した。
医学系研究科	医学専攻		○	○	○	
	先進的医科学専攻		○	○	○	
	看護学専攻		○	○	○	

社会文化創造研究科（社会文化システムコース）

①教育課程の編成・実施方針(CP)	①学位授与方針(DP)
<p>山形大学大学院社会文化創造研究科の教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に沿って、社会文化システムコースでは、学生が体系的かつ主体的に学修できるように教育課程を編成し、これに従って教育を行います。</p> <p>1)教育課程の編成・実施等 (1) 高度専門職業人が有すべき基礎・基盤となる科目や研究テーマに合わせて必要な科目が履修できるカリキュラムを編成する。 (2) 分野にかかわらず共通に求められる基盤的な素養、幅広い知識、多元的な視点・思考法を身に付けるための講義を配置する。</p> <p>2)教育方法 (1) 分野間で異なる論理や方法論を理解させるため、他分野の学生との協働を促す。 (2) 学位論文の作成に際しては、複数の指導教員が一体となり、問題意識・分析手法・結論までの論理性等を確認・指導する。</p> <p>3)教育評価 (1) 講義科目では、到達度を確認出来る明確な成績評価基準に基づき評価を行う。 (2) 修士課程の学位基準に基づき、学位論文あるいは修士課題研究を評価する。</p>	<p>山形大学大学院社会文化創造研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)のもと、社会文化システムコースでは、以下のような知識・態度・能力を獲得した学生に「修士」の学位を授与します。</p> <p>1)豊かな人間力 (1) 社会の国際化に対応すべく、専門領域において他者と積極的に意見を交換することができる多彩なコミュニケーション能力を身に付けている。 (2) 自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える専門的職業人としての高い意識を有している。</p> <p>2)深化した専門的知識・技能と文理兼修による幅広い視野 (1) 社会科学及び人文科学に関する高度で専門的な研究を遂行することができる深い知識と考え方を習得し、それらを現代社会が抱える多様な諸課題の解決のために活用・応用していく能力を有している。 (2) 自らの主張を広く展開するためには、関連領域との連携や巨視・微視的視点を使い分ける複眼的な考察が必要であることを十分に理解している。</p> <p>3)多様な文化の理解とその共生に向けて行動できる能力 (1) 人間の生活の多様性を時空間に囚われることなく把握したうえで、社会科学及び人文科学の専門的視点から今日の課題を抽出することができる能力を身に付けている。 (2) 人間の活動によって育まれた文化の多様性を十分に理解し、それらの維持・醸成のために自ら行動しようとする意識を有している。</p>

②授業科目	③開講単位数 令和3年度 履修者数	時間割コード	授業形式	④開講学年	⑥教育課程の編成・実施方針(CP)						⑦授業の目的	⑧授業の到達目標	⑨学位授与方針(DP)						⑩チェック欄			
					1) (1)	1) (2)	2) (1)	2) (2)	3) (1)	3) (2)			1) (1)	1) (2)	2) (1)	2) (2)	3) (1)	3) (2)	到達目標の明確性	授業目的及び目標がDPと対応しているか	授業目的及び目標がCPと対応しているか	
英語学特論	2		講義	1	○					◎	英語の諸構文を統語論の手法によって分析することを通じて、人間の言語能力の解明に必要な専門的概念・分析手法を習得することを目的とする。	統語論の諸概念と分析手法の習得を通して、言語現象を文法をよりどころにして分析し説明することができる。 本研究分野における問題設定のありか、および、				◎ R		○ R	△ R			
英語語法論特論	2		講義	1	○					◎	英語の語彙的意味と構文表現の意味解釈に関わる代表的な文法理論について、関連分野の文献の読解に基づき、基本的な思考法と分析手法を学ぶこと	英語の語彙および構文の意味解釈に関わる文法のしくみについて考察する。とくに動詞とそれが使用される構文表現における言語学的な分析について				◎ R		○ R	△ R			
英語音声学特論	2		講義	1	○					◎	英語音声学の中心的課題である母音や子音や韻律特徴について音響、調音、知覚の観点からの総合的解釈を試みる。音声言語の実験や調査について	英語音声学の基本概念と、それらの現象を観察し分析する手法や、人間の意思伝達や社会形成における音声に関する諸問題について知る事が出来る				◎ R		○ R	△ R			
生成文法論特論	2		講義	1	○					◎	生成文法の方法論について理解を深め、近年の研究動向を把握することを目的とする。	(1)生成文法の方法論を理解し、現象の分析ができる。(2)生成文法研究の現状を理解し、自らの研究をその中に位置付けることができる。				◎ R		○ R	△ R			
歴史言語学特論	2		講義	1	○					◎	歴史言語学に関する基本的な知識を英語文献の研究を通じて勉強することで、それに関する課題や	歴史言語学の基本、特に様々な変化プロセスや言語接触の社会への影響を理解する。				◎ R		○ R	△ R			

各科目について、CP及びDPとの関連性を◎○△で表記。
 ◎ DP達成のために、特に重要な事項
 ○ DP達成のために、重要な事項
 △ DP達成のために、望ましい事項

各科目について、以下の習熟度を追記。
 I Introduced = 導入
 R Reinforced/Practiced = 発展/強化
 M Mastered = 熟達
 A Assessed = 測定/把握